

学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

令和6年度
グリーンプラン推進校
活動報告書



認定NPO法人 共育・協働の環境づくり

えどがわエコセンター

1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(幼稚園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

条 件

- 対象は江戸川区立の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 実施報告書・会計報告書の提出や報告会への参加をお願いします。
- えどがわエコセンターへの会員登録をお願いします。

2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政や環境団体等と連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・脱炭素社会づくりに関するイベント・講座など
- 資源循環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・河川・海岸の保全、東なぎさクリーン作戦など
- 環境教育・人材育成・・・小中学校出前授業、すくすくスクール放課後環境教育
エコアクション講座、エコカンパニーえどがわの推進など

3. 令和6年度グリーンプラン推進校

◆小学校（25校）

小松川小学校 西一之江小学校 西小松川小学校 大杉小学校 大杉第二小学校
大杉東小学校 東小松川小学校 船堀小学校 二之江第二小学校 第四葛西小学校
第五葛西小学校 南葛西第二小学校 南葛西第三小学校 新田小学校 清新ふたば小学校
瑞江小学校 新堀小学校 鹿骨東小学校 松本小学校 篠崎小学校 篠崎第二小学校
篠崎第三小学校 上一色南小学校 南小岩第二小学校 北小岩小学校

◆中学校（5校）

松江第二中学校 松江第五中学校 南葛西中学校 清新第一中学校 小岩第五中学校

目 次

活 動 報 告

小松川小学校	・・・	p. 3	瑞江小学校	・・・	p.33
西一之江小学校	・・・	p. 5	新堀小学校	・・・	p.35
西小松川小学校	・・・	p. 7	鹿骨東小学校	・・・	p.37
大杉小学校	・・・	p. 9	松本小学校	・・・	p.39
大杉第二小学校	・・・	p.11	篠崎小学校	・・・	p.41
大杉東小学校	・・・	p.13	篠崎第二小学校	・・・	p.43
東小松川小学校	・・・	p.15	篠崎第三小学校	・・・	p.45
船堀小学校	・・・	p.17	上一色南小学校	・・・	p.47
二之江第二小学校	・・・	p.19	南小岩第二小学校	・・・	p.49
第四葛西小学校	・・・	p.21	北小岩小学校	・・・	p.51
第五葛西小学校	・・・	p.23	松江第二中学校	・・・	p.53
南葛西第二小学校	・・・	p.25	松江第五中学校	・・・	p.55
南葛西第三小学校	・・・	p.27	南葛西中学校	・・・	p.57
新田小学校	・・・	p.29	清新第一中学校	・・・	p.59
清新ふたば小学校	・・・	p.31	小岩第五中学校	・・・	p.61

学校名	小松川小学校	対象学年と人数	4年生：57名 5年生：59名
活動名	日本らしい自然の緑の再生		
指導者	学内指導者：泉田陽菜 根津葵 大橋陸人 学外支援者：元東京大学大学院農学生命科学研究科 根元正之先生 日本生態系協会 埼玉県生態系保護協会 堂本泰章先生		



※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 4年生：荒川の在来植物・外来植物、生物多様性などについて、調べたいことを決め、研究計画を立て、資料を集め、必要な情報を探し、記録を整理し、新聞にまとめる。友達の新聞を読み、自分の考えを深める。
- 5年生：荒川の自然を守るためにはどうすればよいかを考え、研究計画を立て、資料を集め、必要な情報を探し、記録を整理し、意見文を書いて発表をする。友達の意見文を聞いて、自分の考えを深める。

成果

- 秋の七草のカワラナデシコは、絶滅が危惧される在来植物である。今年度も、昨年度までの活動を引き続き行い、本校児童5年生が昨年度育てたカワラナデシコを4年生が引き継いで、夏休みに苗を一人一株ずつ持ち帰って育てた。
- これまで、荒川中流域にある三ツ又沼ピオトープで長い間保全活動を行い、環境省から自然環境功労者環境大臣表彰をされた菅間宏子先生からたくさんのお話を教わってきた。2011年に荒川上流域にある大麻生公園のカワラナデシコの種子を菅間先生からいただき、荒川下流域の小学校の児童たちの活動によって増やしてきた。
- 今年度も、埼玉県生態系保護協会のご協力もあり、5年生が、川島町立つばさ北小学校、つばさ南小学校、しのめキッズパーク保育園に本校で育てたカワラナデシコの苗と種を渡し、4校でオンラインによる交流会を行った。
- その後、5年生が荒川中流域の太郎右衛門自然再生地へ行き、カワラナデシコを移植した。菅間先生の『上尾とその周辺の植物』の本を読むと、上尾周辺でカワラナデシコは見られなくなったことが分かる。

感想・課題等

- 感想：来年度以降も、本校児童が在来植物のカワラナデシコの育て方を引き継いで、日本らしい自然の緑を再生していきたい。
- 課題：必ず関東河川流域から採取した在来植物を移植することで、遺伝子攪乱をおこさないようにすることの難しさ

○昨年度5年生が苗から育て、今年度7月に咲いたカワラナデシコの花と、
今年度8月に植えたカワラナデシコの苗



○5年生が、10月に荒川中流域の太郎右衛門自然再生地へ行き、カワラナデシコを移植した時の様子



学校名	江戸川区立西一之江小学校	対象学年と人数	全学年 650名
活動名	身近な自然に触れよう 大切にしよう/「エコ」へむけての取組み		
指導者	学内指導者：校長 川浦孝彦 他 全教職員 学外支援者：江戸川区役所緑化推進係、公園ボランティア（4年公園整備）、学校応援団、PTA イクメンジャー（カブトムシの育成）、小松菜農家さん		

								
	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 身近な自然に目を向け、自然を大切にしていこうとする気持ちを養う
カブトムシの育成・飼育委員のカメの飼育とプランターづくり
近隣の公園の整備・各学年の花壇活動と栽培（小松菜・へちま・ゴーヤ・米・芋・プランターの植物栽培）
- ごみを区別し再利用・再活用することや節水などで環境にやさしくできるように生活する。

成果

- 「カブトムシから学ぶSDGs」として令和6年度 第3回SDGs環境未来賞を受賞した。
- 3年生と飼育委員の児童を中心に、今年度もカブトムシの世話をを行った。年度初めに、学校応援団、PTAイクメンジャーと共に、カブトムシ小屋の整備を行い、642匹の幼虫が育っていることを確認した。昨年度は学級ごとに飼育を行うことになったが、今年度は3年生が一人1匹の幼虫の飼育を行うことができた。活動の中で、カブトムシ小屋から出る糞や腐葉土を肥料として学年の花壇の土や飼育委員の育てるプランター土にすきこんだ。糞や腐葉土は、野菜や花を育てるための大切な肥料として活用できること、自然の様々な事象は循環していることを、活動を通して学ぶことができた。飼育委員はカメの飼育の餌やりを低学年の児童と一緒にいき、カメ池の清掃やプランターの花の育成を行った。
- 各学年とも、学年花壇で植物を育て、身近な自然に触れることができた。3年生では、小松菜農家を訪ね、小松菜の育て方を学習するとともに、花壇で小松菜の種をまき育てた。4年生は7月と11月に近隣の公園に出かけ、公園の花壇の花の苗の植替えを行った。近隣に広がる農家に目を向け、地域のボランティアの方と一緒に行動し、地域の自然へも目を向けられた。5年生は、極地研究振興会理事・第46次南極観測隊長の松原廣司先生をお招きして環境学習を行った。南極の自然や厳しい環境や、日本を含めた世界の気象変動について知り、今取り組むべき課題や地球温暖化防止のために日ごろから取り組めることを考えることができ、身近な自然の大切さに気付くことができた。
- エコ委員会の児童と用務主事を中心に、ごみの分別の徹底を行った。ダンボールの細かいものはテープなどを取り外して、再生可能な状態にすることを全校で共通理解して行うことができた。

感想・課題等

- 学校内の自然から地域の自然環境へ目が向くようになり、大切にしていこうとする気持ちが育った。また、毎年継続している活動については、引き継いでいきたいという気持ちが継続し、持続可能な社会に向けての意識を高めることができた。活動の時期が限定されてきがちであるので、継続できるよう見直していく。
- 児童が、ごみの分別や水を大切に使うことなどの日々の取り組みを継続することで、環境にやさしい生活を意識していくことができている。更に、児童の中に定着できるよう工夫を重ねていく。

カブトムシ小屋の整備：越冬したカブトムシの幼虫をカブトムシ小屋の土の中から掘り出し、飼育のケースに移す作業を行う。その時、カブトムシの糞や土をふるいにかけて糞と土を分けて、肥料になるところは、学級花壇に入れ込んで、植物を育てている。



小松菜農家の見学：3年生が小松菜農家を訪ね、ハウスの中の土や農機具の様子を見学し、実際に触って小松菜栽培の実際を知ることができた。

松江公園の苗の植替え：4年生が近隣の松江公園で近隣のボランティアの方や地域の方々と花壇の花の苗の植替えを行った。



環境教育プログラム：5年生が12月6日(金)に実施。世界の気候変動について知り、地球温暖化防止のために取り組めることを考えることができた。

5・6年生のエコ委員会の児童が、清掃時にごみを収集場所に立ち分別の確認をすることやエコパトロール・ポスターの掲示で意識が高まっている。



学校名	西小松川小学校	対象学年と人数	1年生（68名）、2年生（75名）、 3年生（67名）、6年生（有志）
活動名	にしこに虫を呼び、自然を感じる学校へ		
指導者	学内指導者：1年教職員、2年教職員、3年教職員、西田将基 学外支援者：中嶋美南子（江戸川ムジモナ保存会 会長 認定 NPO 法人 江戸川 エコセンター会員）、越塚弘（越塚農園）、大野貴章		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 学校に生息する虫（チョウ、トンボ、バッタなど）、生き物の種類を増やす。
- 学校の花壇を活用した緑化活動を通じて、自然との親しみの機会を増やす。
- 秋について予想しながら、夏の自然との違いを探し、公園や校庭の自然の変化に気づく。
- トンボの生態を学び、学校のプールをトンボが住みやすい環境に整えることを目指す。
- 小松菜等の栽培を通して、野菜の育て方を学び、植物への理解を深める。

成果

- 柑橘系の植物やブuddleア等のチョウが好む植物や稲を植えることで、昨年度と比べ多様なチョウが増え、児童が興味をもって観察するようになった。
- 学校全体で緑が増え、子どもたちの植物への関心が高まった。
- 講師からプール掃除で捕獲したヤゴの種類や生態について学び、羽化やヤゴトープづくりに興味をもつ児童が増えた。
- トンボの生態について映像や講義を通じて楽しく学び、トンボが住みやすい環境について理解した。
- トンボを呼び寄せるための装置を児童がつくり、トンボに適した環境づくりへの関心が高まった。
- 学校のプールに浮島を設置し、9月のプール内の生き物について知りトンボの多様性に興味をもった。
- 実際にどんぐりや松ぼっくりなどの植物に触れることで、秋の植物や生き物について理解を深めたり、秋の自然を身近に感じたりすることができた。
- 小松菜栽培に関する実践的な知識を得ることで、教科書では得られない農家の苦勞ややりがいを感じる経験ができた。

感想・課題等

- 学校全体で環境教育を意識することで、他教科と環境教育の横断的な学びの意識が高まった。
- 生き物と接する機会が減っている中で、このような自然に関する学びの経験は非常に重要だと感じた。
- 授業後に児童が「トンボ来ているかな？」と仕掛けに興味を示す姿が見られ、自然への関心が高まっている様子が伺えた。
- 外部からの先生から教えていただけることで、普段の生活では聞けないような話を聞くことができた。
- 人の手だけで耕すのには、時間と労力を大いに要した。簡易耕運機をグリーンプランの予算で購入し、今後も栽培活動を充実させたい。

小松菜の育て方



ヤゴを呼ぼう



秋をさがそう



おもちゃづくり



おもちゃづくり



秋をさがそう



秋をさがそう



栽培活動



学校名	江戸川区立大杉小学校	対象学年と人数	環境委員会・保護者ボランティア 環境財団・学校職員 計30人以上
活動名	大杉小緑化計画第2弾・花いっぱい活動		
指導者	学内指導者： 藤田校長・青木副校長・永井教諭・荒井教諭 学外支援者： 環境財団の方々・有志保護者ボランティア		



※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

○農林水産省が「花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと」との「花育」を推進している。そこで大杉小学校のあらゆる場所に花を植え、育て、大杉っ子たちを花いっぱいでき囲み、「花育」を実践していく。

成果

- 学校から「花いっぱい活動 ボランティア募集」を募り、3人の保護者ボランティアの方さらにすすすくスクールと連携し、環境財団の方々にも参加してもらった。このグリーンプラン及び「花いっぱい活動」で人とのつながりができた。
- 休み時間に校庭で遊ぶ前に「花がたくさんある！」「きれい～」「私も花を持ってきて植えていい？」と多くの子どもたちから声があがった。
- 実際に子どもたちが「綿の花」を持ってきて、副校長と一緒に植えたり、自発的に花に水をあげたりと「花育」の意識が芽生え始めた。

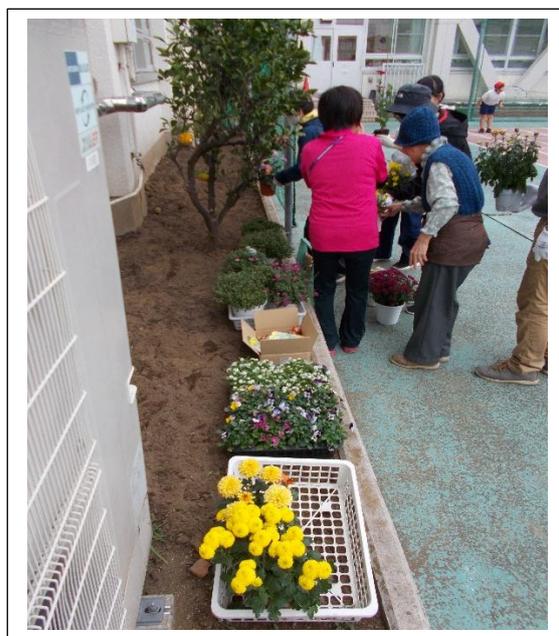
感想・課題等

- 初めて保護者にこの「グリーンプラン」に基づいて活動と呼び掛けたところ、賛同していただける方がいて、さらに環境財団とも連携できた。「やってみること」が大切であることを改めて感じました。
- 環境委員会もありますが、何よりも「教職員が先ずやること」。そうすれば子どもたちは「何をやっているんだろう？」「一緒にやりたい」と興味・関心をもってくると感じた。
- この取組をいかに子どもたちの活動につなげていくかが課題。そのためにも教職員が継続し、呼び掛けていくことが重要である。
- 「花育」についてほとんどの教職員や保護者、子どもたちは知らない。この啓発活動を環境委員会等に位置付けていくことが重要である。

【校長先生・環境財団・保護者ボランティアの方々との花植え作業】



【様々な花の色合いを見ながら植えました！】



学校名	大杉第二小学校	対象学年と人数	全校児童 528名
活動名	自然と人と ともに生きる☆杉二小		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：江戸川区子ども未来館 PTA お掃除し隊ボランティア		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

○学校全体で、SDGsに関わる活動を計画し取り組むことで、地域社会や自然環境に目を向け、地域をよりよくしていこうという気持ちを高めることができる。

成果

- 各学級で地域の環境をよくするために、各学級でどのようなことが取り組みそうかを話し合った。その話し合い活動がきっかけとなり、全学年がそれぞれ、公園や新中川の河川敷などでボランティア清掃を行うことにつながった。地域のごみの多さや日常的に環境に目を向ける大切さを学ぶことができた。(PTA お掃除し隊ボランティアと連携する予定。)
- 3年生は、屋上プールに「ヤゴトープ」を作り、4年生のときに「ヤゴ救出作戦」を行うことを継続して行ってきた。今年度は、プールから200匹ほどのヤゴを救出したことから、3・4年生を中心にヤゴからギンヤンマまで育てる飼育活動を充実させることができた。生き物の飼育に関心をもつ児童が増え、自宅に持ち帰って飼育する児童もいた。
- 生活科を中心に地域や学校の自然環境とかかわりながら、「河川敷での昆虫採集」や「季節の遊びの材料集め」を行った。トノサマバッタを捕まえて喜ぶ姿やドングリやイチョウの葉っぱを集めて楽しく遊ぶ姿が見られた。
- 地域の方々とかかわる活動にも取り組んでいる。1年生は、毎月一回の遊びの活動、「ふれあいウェンズデー」、毎週木曜日の見守り隊において、地域のお年寄りとかかわりを深めている。
- 2年生は、生活科の栽培活動と地域の人へのインタビュー活動を発展させて、地域の人々と「花いっぱい大作戦」に取り組んでいる。日日草(夏～秋)、パンジー(冬～春)の2回に分けてプランターを6つの施設や店舗へ届け、3月末まで一緒に花を育てる活動を行う。地域の人々とかかわりの様子は、学習発表会で全校児童や保護者、地域に向けて発信した。(今後、3年生は区役所の方々とかかわり2100年共生プランを学習する予定である。)

感想・課題等

- 2年前に、SDGs未来賞をいただいてから、SDGsへの関心が高まり、その後も児童がSDGsの取組としてできることはないかと考え、学習や日常生活の中で継続して取り組んできた。給食等でのごみの削減やリサイクル活動、生き物と関わる環境活動などの取組は定着している。地域の人とかかわる活動もさらに充実を図っていく。地域のよさに気づき、地域へ関心や愛情をもち続ける児童を育てていきたい。

プールでのヤゴ救出作戦



来年へ向けたヤゴトープ作り



グリーンプランを支える大人



新中川河川敷で昆虫採集や観察



地域のボランティア清掃（全学年）



地域の方と花を育てる活動



保護者に見守られ花を植える



「花いっぱい大作戦」の
ポスターを見る地域の人



保護者や全校児童に「花いっ
ぱい大作戦」を伝える発表



育てたサツマイモの収穫
（大きなイモが出てきました。）



取組の意欲をさらに高めた SDG s 環境賞を紹介する掲示板



受賞後にどのような取組をしてきたかの紹介を行い、「SDG s 環境賞★おめでとう集会」を行いました。その後も、SDG s の取組を継続して進めてきました。今年は、人とのかわりも含めて取り組んでいます。掲示板には、これまでの活動が掲示されています。

日常的な生き物の世話や観察
（いろいろな学年の児童とともに）



ヤゴから育てたギンヤンマ
を自然に戻す



落ち葉をかき集める高学年児童



学校名	江戸川区立大杉東小学校	対象学年と人数	4年（70名）・5年（84名）
活動名	大杉東グリーンアクションプラン		
指導者	学内指導者：村田夏美 須藤健太 熊谷友宏 勝澤正暢 佐々木駿輔 徳地史 学外支援者：		



※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- ヘチマやひょうたん、ゴーヤなどを育てる活動を通して植物が育つ喜びを味わい、グリーンカーテンを作ることによって、CO₂の削減、室内温度の上昇防止など身近な環境問題に関心をもたせる。
- 地域のクリーン活動を通して、街をきれいにし、住みやすい環境を整える。

成果

- ヘチマやひょうたん、ゴーヤなどを育てる活動を通して、植物が育つ喜び、植物を大切にしている心情が高まり、環境問題に対する関心が高まった。
- 地域のクリーン活動を通して、自分が住む街の環境に対する関心を高めることができた。また、実際にゴミ拾いなどを行うことで様々な種類のゴミが落ちていることに気づき、3Rの意識が芽生えた。

感想・課題等

- 今年度新校舎になり、新たにできた3階の「学びのテラス」でグリーンカーテンを作ったが、夏の暑さもあり最後まで育て切れなかった。プランターの大きさや土の量、水やりの回数など次年度の課題として取り組んでいく。
- クリーン活動では、地域を回ってみると、人目のつかない場所にたくさんのゴミが落ちていることに多くの児童が気付いた。その問題を解決するためにはどうすればよいか、新たな課題として捉え、児童が解決策を考えている。
- 今年度は新校舎が完成し、次年度は校庭が完成することで、これまでとは異なる校舎周りの環境になる。新たな環境の中で、児童と共に自然環境を豊かにしていく取り組みを考えていきたい。



5年生 私たちが暮らす地域のクリーン活動



4年生 グリーンカーテン

学校名	江戸川区立東小松川小学校	対象学年と人数	全学年：617人
活動名	蓮と緑に包まれたヒガコマ		
指導者	学内指導者：校長 高木 伊織 他 全教職員 学外支援者：尾崎 守男 様（蓮田を守る会）、PTA、学校応援団		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 蓮の植え付けの様子を観察し、蓮について関心をもつ。
- 蓮田を継承する地域の方々と交流を図り、地域への愛着と感謝の気持ちを育てる。
- 多摩や姉妹都市鶴岡市の木をふんだんに使った新校舎そのものや、気持ちを癒す屋上緑化、太陽光発電などの施設に関心をもち、持続可能な社会への意識を高める。

成果

- 地域の伝統産業である蓮を育て観賞することで、郷土に対する誇りと地域の一員としての自覚を高めることができた。
- 地域の人材資源を活用して保護者、地域、教職員が一体となった活動を展開することができた。
- 木の香りやぬくもりを五感で感じることで、新校舎に愛着をもち、のびのびと生活できている。太陽光パネルの発電量をモニターで観察する、屋上緑化の意義について学ぶこと等は、持続可能な社会について「エネルギー問題や地球温暖化」などの観点から考えるきっかけとなった。

感想・課題等

【児童の感想】

- 重い土の中は一歩歩くだけでも大変でした。地域の方に手を引っ張ってもらいながら移動して種になる蓮を探しました。植え直した蓮が大きく育つといいです。
- 食物を生産することの大変さを知りました。来年は、蓮田に入って収穫してみたいです。

【課題】

- 校庭工事中のため蓮堀が大人だけの作業になってしまった。来年度は、また児童と教職員、地域の方、PTAの方々と協力して行う予定である。また、囲いで覆われていたため、児童が蓮の生育途中の世話をする時間をもつことができず、用務主事に任せることが多くなってしまった。
- 蓮植えや蓮掘りの様子、蓮の成長過程を学校ホームページに積極的に紹介し、本校の特色のある教育活動の様子を広く周知していく必要がある。
- 屋上緑化や太陽光パネルについても、学習の中に計画的に位置付けたい。

【 7月 蓮の花とつぼみ 】



【 11月のレンコン掘りと、採れたレンコン 】



【 新校舎の屋上に設置された
太陽光発電パネル 】



【 ヒガコマ名物
ハスのはさみあげ 】



【 床、天井、壁に木をふんだんに使った新校舎 】



【 PTAと協力して行っている、ペットボトル

【 3階の廊下から見える屋上緑化庭園
木のベンチは、旧校庭にあったイチョウ
の木を再利用したもの 】



学校名	江戸川区立 船堀小学校	対象学年と人数	全学年 801名 理科栽培委員会 34名
活動名	船小ガーデンを通じた体験的学習		
指導者	学内指導者： 学級担任		

※該当するSDGsの項目に「O」を記入

目標

授業時間外での植物栽培活動を通して、季節の草花に触れ合うことでボランティアマインドの育成を行う。

成果

学校外からも見ることができる場所に、船小ガーデンがあることで登下校の際にもガーデンの様子を見ることができ関心が高まっていた。また、地域の方々も通行の際に見ていることが多く、お世話をしている児童や、職員に話しかける姿もあり交流が生まれていた。本校ホームページでガーデンのお世話をするボランティアを募集すると地域の方や保護者からの応募もあり、バス停前のスペースに花を植えたり、1区画担当していただき球根や季節の花を植えてもらったりした。

各学年に畑のレイアウトや、植え付けをお願いしたことで「自分たちが育てるんだ」という気持ちが芽生え、各学年休み時間や登下校時に船小ガーデンに寄り水をあげたり、雑草を抜いたりする姿が見られた。

感想・課題等

夏休み中も船堀ガーデンに寄り水をあげる姿があった。秋冬植物の選定、植え付けを各学年が担当し、休み時間や登下校でガーデンに寄り、草花のお世話をする児童が増えた。そのことから自分たちで草花を植えることで植物を育てるという責任感や、草花に対しての興味関心が高まったと考えられる。

自分たちでは畑を耕し、植物が育ちやすい環境を作ることは大変なので、業者とも協力してより草花が育ちやすい環境をつくっていくことも大切だと感じた。

理科栽培委員会では花だけではなく野菜も育て、収穫して各家庭に持ち帰った。普段野菜をあまり食べなかった児童も自分たちで育てた野菜ということもあり「いつもよりおいしかった。」と話をしていた。苗を植え、水をやり育て、収穫して食べるという植物を育てる楽しさを感じることができたと思う。

今後の課題としては、各学年で中心になって活動する児童が固定化されており、より多くの児童が船堀ガーデンに関わっていくように委員会活動を全校に紹介したり、各学年の学習と関連付けたりする工夫が必要である。

ガーデンの様子



休み時間・放課後・委員会の様子



学校名	二之江第二小学校	対象学年と人数	全学年 355人
活動名	「みんなで守ろう環境計画 地球の未来は二之江から」		
指導者	学内指導者：校長 杉山勇 他 全教職員 学外支援者：蓮田愛育会、公園ボランティア、学校応援団、PTA、田中農園		

	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	/	

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 各学年における栽培活動を通して、CO2削減、室内温度の上昇防止、リサイクル活動など身近な環境問題やその改善に関心をもたせる。
- 校内における蓮田や校内花壇を中心とした栽培活動や金魚等の生き物観察を通して、自然を大切にしようとする意識を高める。

成果

- 飼育委員会を中心に金魚やウサギを飼育し、他の学年もウサギと触れ合う機会を設け、学校全体で生き物を大切にすることを意識することができた。
- 2年生では、学年園で複数の野菜を育てて比較する学習や、ヤゴやバッタなどの虫取りと飼育・観察を行った。児童が動植物に愛着をもち、自然を大切にしようとする意識をもつことができた。
- 3年生では、地域の方と連携して、校内にある蓮田で蓮の栽培をした。また、実際に小松菜農家を訪ねて小松菜の育て方を学習したり、栄養士と連携して給食の献立を用いた学習をし、見学した農家で栽培された小松菜を食したりした。これらを通し、地域の産業への興味関心を高めるとともに郷土愛を深めることができた。7月と11月には、近隣の公園に出かけ、公園の花壇の花の苗の植替えを行い、地域の自然へも目を向けられた。
- 4年生では、環境問題についての調べ学習やグリーンネットを利用したゴーヤとヘチマの栽培を通して、持続可能な社会への関心を高めた。
- 牛乳パックのリサイクルや掃除の時間のごみの分別、校内で収穫したレンコンやサツマイモを用いた給食などを通し、食材の大切さやごみの削減に対する意識向上につながった。
- 理科室前や階段の掲示板を活用し、資源を大切にすることや身近な自然に関することについて、児童が興味を持てるようにした。

感想・課題等

- 蓮田愛育会の方に来校いただき、蓮の植え方・育て方等を教えていただいたことで、児童はもちろん、教師も大変勉強になった。今後も、地域の方と連携して環境学習を進めていきたい。
- 猛暑により、蓮田に虫がついたり、学年園で栽培している植物がうまく育たなかったりした。学習活動に支障がないよう、栽培する植物や植える時期等を検討していきたい。
- 活動の時期が、動植物の活発な夏頃に限定されてきているので、年間を通して継続して活動できるよう、計画立てて取り組みたい。

【蓮植え】



【蓮掘り】



夏には、蓮の花が咲きました。
収穫した蓮は、レンコンの挟み揚げにして、
給食でおいしくいただきました。



【ヤゴの観察】



プールで捕まえたヤゴを教室で飼育しました。
たくさんのヤゴが羽化に成功し、時には、
廊下を飛び回る様子も見られました。

【学年園で収穫した野菜】



【サツマイモの収穫】



学校名	第四葛西小学校	対象学年と人数	全学年：668人 グリーン委員会：19人 園芸委員会：19人
活動名	グリーンアドベンチャー		
指導者	学内指導者：教職員全員		



※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 緑豊かな第四葛西小学校の環境を生かし、樹木や草花に親しむ。
- 活動の中で様々な感覚に働きかけることで、豊かな感性を養う。
- 異年齢集団による活動を通して、相手への思いやりの気持ちを養う。

成果

- 1年間、自分の担当の木を観察したりクイズを作ったりしたことで、担当の木の知識や愛着をもつことができた。
- 縦割り班活動では、高学年が率先して低学年に担当の木の特徴を伝えている姿が見られた。
- グリーン検定会を行い、校内の木々について積極的に学ぶことができた。
- グリーン委員会の児童が、金魚と亀の世話をしたり、全校児童に呼び掛けるポスターを作成したりして、全校児童が校内の生き物に関わろうとする意識を高めることができた。
- 園芸委員会の児童が、花の手入れや水やりをしたり、新しい花を植えたりする活動を通して、校内の自然を大切にすることができた。

感想・課題等

- 児童がそれぞれの担当の木を1年間観察したり、クイズを作ったりしたことで、一人一人が本校の木々に興味をもつことができた。
- 縦割り班で活動したことで、高学年が低学年に優しく関わる機会を得ることができた。また、低学年も高学年に関わることで本校の樹木や草花について教わることができた。
- グリーン委員会では、生き物の世話をすることを通して、自分たちで四小の環境をよりよくしようとする態度を育てることができた。
- 園芸委員会では、全校児童に向けて集会を開き、本校の花の紹介や全校児童の呼び掛けを行うなど、全校児童が自然を大切にしようとする意識を高めることができた。
- グリーン検定会では、昨年度の2倍以上の児童が参加し、本校の木々に興味をもって活動することができた。

課題

- 木の成育が悪化するなどの不測の事態が生じた際に、継続観察の難しさがあった。

【グリーンアドベンチャーの活動】



【園芸委員会の取り組み】



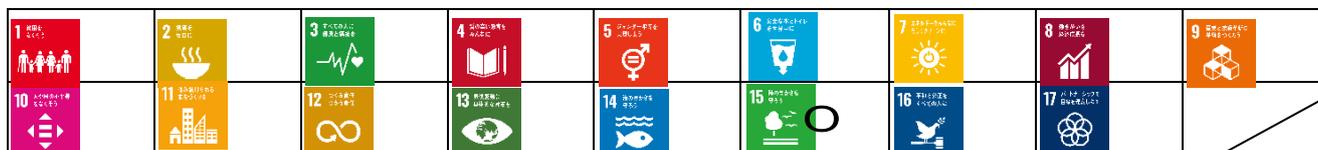
【グリーン委員会の取り組み】



【グリーンドクター・マスター検定会】



学校名	江戸川区立第五葛西小学校	対象学年と人数	全学年 461人
活動名	五葛西みどりいっぱい活動		
指導者	学内指導者： 1～6年担任 栽培委員会担当教諭		



※該当するSDGsの項目に「O」を記入

目標

- 小学校の花壇を整備し、花や野菜を植えることで、校内外の人々に憩いと潤いを与える。
- グリーンカーテンを作ることで、植物と地球温暖化の関係を考える機会を作る。
- 花壇にミニ農園を作って農作物を栽培し、できた作物を収穫する喜びを体験する。
- 収穫した作物を給食のサラダに加えるなど、自然の恵みに感謝しながら会食など活用する機会をもつ。

成果

- 児童が登下校の際に通過する校庭の花壇では、栽培委員会の児童が中心となり、フウセンカズラとアサガオの緑のカーテン栽培はじめ、様々な野菜・草花の栽培を続けた。また、1年生の朝顔、2年生のミニトマト・さつまいも、3年生の小松菜、4年生のヘチマ・ゴーヤ、5年生の米、6年生のホウセンカなど、各学年においても、植物の世話や観察を通して、植物の成長や花や実の変化に興味・関心をもたせることができた。
- 緑のカーテンや植物の栽培を進めることで、小さなことでも継続することが必要であること、多くの人が集まれば大きな力になること、地道な努力が地球温暖化を防ぐことにつながることに気付くことができた。

感想・課題等

- 土づくりが上手く進み、5月に植えたキュウリやナス、ピーマンは大きく育ち、子供たちも驚きの眼差しでよく観察していた。それらを栄養士に相談して給食のサラダのメニューに加えてもらい、全校児童・職員で食することができた。6、7月にはトマト、枝豆、ゴーヤ、10月には米、11月にはさつまいも、バジル、セロリの収穫などがあり、年間を通して野菜の収穫ができた。
- グリーンカーテンは、校舎を覆いつくまでにはなかったが、5月から9月までの長きにわたって校舎の窓・壁に当たる強い日差しを遮ってくれた。
- 今年度は、高温・少雨の天気が続き、夏の水やりが大変で、植物を枯らさないように世話をする努力が必要だった。特にトマト栽培は、収穫時、実のひび割れが目立った。
- 栽培委員会の児童は、学期ごとに育てる野菜や花を考え、当番を決めて、毎日水やりや観察を行った。こうした児童主体の活動により、学校緑化の意識が高まることにつながった。また、高学年が花壇の世話をしていると、低学年の児童や学童・すすくすくスクールに通う児童がその様子を見ていて話しかけたり、自主的に手伝いをしたりする様子が多く見られた。



学校名	南葛西第二小学校	対象学年と人数	全学年・600名
活動名	地域の豊かな自然を生かした体験的活動の充実		
指導者	学内指導者：全学年担任 学外支援者：葛西さざなみ会・草薙農園・なぎさポニーランド		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

地域や人や物、自身や日本の文化などに関わる探究的な学習の過程において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域や自身、日本のよさや特徴、それらを人々が工夫したり、努力したりして支えられていることに気づくようにする。

成果

地域見学や農業体験など、体験活動を重視し、共同的な学習活動の充実を図った。各学年において、題材を開発して取り組んだ。

<主な活動>

- 1年生は、学校の前にあるなぎさポニーランドにおいて、乗馬体験や厩舎の見学を行った。
- 2年生は、校庭内にある畑において、サツマイモの収穫を行った。
- 3年生は、篠崎にある小松菜農園へ見学に行き、実際に小松菜を抜く体験を行った。また、冬場において、葛西さざなみ会の協力で、のりすき体験を行った。
- 4年生は、学区内を流れる左近川において、生き物の採集や観察、まとめを行った。
- 5年生は、学区内の田んぼを活用し、葛西さざなみ会の協力を得て、田植えから収穫まで行い、1月にはもちつきを行い、地域の方と試食した。
- 6年生は、宿泊行事を行い、日光の自然や文化、伝統に触れることができた。

感想・課題等

地域の協力もあって、毎年自然体験を充実して行える。課題は、各学年ある。

- 1年生は、年に1回程度の体験だが、学期に1回など、複数回体験を考えている。
- 2年生は、校庭に作った畑面積が狭く、拡張を考えているが土地面積に限界がある。
- 3年生は、農園が遠いことでバスでの見学やのりすき体験の出費が大きい。
- 4年生は、今後エコセンターとの協力（出前授業）を生かせないか検討している。
- 5年生は、立地に恵まれ、これまで継続して実施できた。今後も継続してほしい。
- 6年生は、地元を離れた活動が主となっているが、地元でも誇れる題材を探していきたい。

《代表の活動を紹介》

【第2学年】 うれしい・たのしい・さつまいも掘り



【第3学年】 小松菜見学・のりすき体験



【第5学年】 お米作りを体験しよう



学校名	南葛西第三小学校	対象学年と人数	5年（92名）
活動名	お米作りについて調べよう		
指導者	学内指導者： 小野寺・海老原・米田 学外支援者：		

※該当するSDGsの項目に「O」を記入

目標

- お米作りの体験を通して、生産者の苦勞を知るとともに、食べ物を一つ一つ手作業で行うことの難しさについて学ぶ。
- 体験での学びを通して、改めて食べ物を大切にしようとする意識をもつ。

成果

- 普段体験することのできない活動を行うことで、食べ物を育てることに興味をもつことができた。
- 田植えや稲刈り、脱穀などを行うことによって、一つ一つの作業の難しさを実感し、食べ物を大切にしていこうという意識につながった。
- 身近な物でも活用の仕方を工夫することで、米作りの道具として使うことができることを知った。

感想・課題等

授業の中でしか植物や農作物を育てたことがない児童が多いため、今回の学習を通して農作物を育てることの楽しさや難しさを実感することができたと思う。

単元のはじめに行った稲の田植え体験のときには、ぬるっとした感触の田んぼの中に手を入れることに抵抗を感じている様子が見られたが、水やりを続けていく中で、すくすくと稲が成長していくことに驚きを感じていた。そして、稲刈りと脱穀では多くの児童が夢中になって作業に取り掛かり、自分たちの力で稲が育ったことに喜びを感じている姿がとても微笑ましく、児童の中からも自然と日頃食べているお米がこんなにたくさんの作業と努力によって自分たちに届いていることへの驚きや気付きが拳がるようになった。

今回の学習活動で学んだことや感じたことを忘れずに、これからも食べ物を無駄にしない、大切にすることをもち続けてほしいと思う。

【田植えの様子】



【脱穀の様子】



学校名	新田小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	ShinDenGoals～私たちがつくる未来～		
指導者	学内指導者： 全職員 学外支援者： 学校応援団 子ども未来館講師		

								
	 ○	 ○		 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

学校の自然や生き物について学び、関心を持ち、意識を高める。

成果

- 第二学年を中心に、プールで水泳指導終了後、トンボが卵を産むように葦等を浮かべ、ヤゴが登れるよう枯れ枝を設置しました。
- 第三学年は、学校だけでなく、近隣の新左近川の環境の変化や生態について学びました。
- 花の植え付け栽培については、新しくアップルゴーヤによるグリーンカーテンができました。

感想・課題等

新田小学校では、SDGsをShinDen（新田）Goalsと掲げ、現在、各学年において各目標を設定して活動しています。特に、第二学年では、子ども未来館の講師の方や学校応援団のご協力の下、葦等を準備していただき、ヤゴの生育を行っています。

また、第三学年では、子ども未来館の講師の方のご協力をいただき、新田小学校の近くにある新左近川の環境の変化や生態について学びました。そこでは、環境が汽水域から淡水域に変化しつつあるなかでも、生態系が形成されているのが観察されました。

そして、昨年度から継続している、花の植え付け栽培によって、一年を通して移りゆく季節のなかで、花が変化していくさまを感じることができました。その中でも、初の試みとして、アップルゴーヤによるグリーンカーテンを行いました。グリーンカーテンの設置には、学校応援団の方々のご協力をいただきました。その結果、グリーンカーテンとして効果があり、次年度は、倍の長さにすることも予定しています。現在、次年度用に実から種を採取し、保存しています。

今年度は、講師の方々、すくすくスクールや学校応援団や地域の方々などのご協力があり、地域一体の活動となりました。このプロセスを、さらに子どもたち主体にして、一時的なものではなく持続可能な活動にしていくことが重要です。

私たちは、このような貴重な体験と機会を提供していただいたことに深く感謝しており、新年度の活動でもこれらの取り組みを引き続き実践していきます。



種から育てたアップルゴーヤーを地植えました。



アップルゴーヤーが育ちました。



向日葵もグリーンカーテンも勢いがありました。



葦を集めてペットボトルを浮き輪にして、浮かべました。



新左近川で塩分濃度の測定しました。



新左近川で捕獲した生き物を観察しました。

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	5, 6年 30人
活動名	地域一体！ 🌸 お花咲かせ隊 🌸		
指導者	学内指導者：栽培委員会担当教員 学外支援者：学校応援団		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 歩道に面している花壇を整備し、明るく和やかな学校づくり・地域づくりに励む。
- 地域の方々との活動を通して、自分の街に愛着をもち貢献しようとする意欲を育む。

成果

- 毎日の水やりなどの活動を通して、植物を元気に栽培し続けることの難しさを実感した。これまで花壇などの整備をしていただいた方へ、感謝の念を抱くことができた。
- 地域の先輩から、植栽や手入れについてたくさんのことを学び、自然・植物に対して興味・関心を高めることができた。
- 熱心に活動してくださる地域の方々との関わりを通して、多くの方に見守られているということを実感できた。

感想・課題等

- 元気に育つ花がある一方、植栽後すぐにかれてしまう花もあった。日当たりが悪いところがあり、樹木の剪定なども視野に入れて環境改善する必要がある。
- 花を植えたことにより、歩道の雰囲気が見違えるほど明るくなった。参加した児童は、自分が植えた花がどう育っているかを気かけ、植物に関心を持つようになった。
- 今年度は、地域の方との取組が花壇に限定されていた。より幅広い活動の在り方を考えていきたい。
- 活動時間を月1回の委員会時に設定した。これからは、地域の方々都合の良い時間に自由に活動できるような取組を考えていきたい。



Before



After



地域の先輩方が、やさしく教えてくださいました！



🌸 歩道が明るくなりました 🌸



学校名	瑞江小学校	対象学年と人数	1年生(58名) 飼育・栽培委員会(5~6年生)
活動名	カブトムシとふれあおう 樹木に名札をつけよう ヤゴ救出大作戦		
指導者	学内指導者：田村祐介 毛利優希 吉田拓司 三宅奈那 学外支援者：		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- ・生物や自然とのふれ合いを通して、慈愛の精神を養う。
- ・樹木の名前を調べ、名札を付ける活動を通して、樹木への関心を高める。
- ・水生昆虫の生態を観察し、理解を深める。

成果

- ・カブトムシの幼虫や成虫の観察を通して、生き物への関心が高まった。
- ・カブトムシの飼育を1年間する中で、愛着がわき、生物への理解が深まった。
- ・校内の樹木に対して関心をもつことができた。
- ・他の学年に樹木の説明をすることで学習の中で役立てることができた。
- ・ヤゴ以外の生き物の観察をすることができた。

感想・課題等

- ・今回は、外部指導員の方をタイミング等が合わず呼ぶことができなかった。来年度は、事前に計画を立てて活動を増やしていきたい。
- ・来年度は、4月から樹木の観察をしていく。
- ・観察池の生物の種類を増やしていけるよう計画を立てる。
- ・継続的に観察池の環境改善を図っているが、取り除いた落ち葉や水草の活用ができていないので肥料にするなどの過程を考えていきたい。
- ・プランターに季節ごとに花を植えた。児童に関心が向けられるように計画していきたい。



学校名	新堀小学校	対象学年と人数	保健環境委員会 18人
活動名	新堀小グリーンプラン2024		
指導者	学内指導者：保健環境委員担当教員 学外支援者：学校応援団・新堀小グリーンプラン（保健環境委員花植え活動）		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 校内にある銅像公園の整備をし、四季折々の草花を鑑賞してもらう。
- 身の回りにある自然に触れ、自然の素晴らしさを感じ、大切に作る心を育てる。

成果

- 昨年度に引き続き、銅像公園にアジサイの苗を植えた。昨年度とは違う区画に苗を植え、すべての区画が植え終わった。
- 花と緑いっぱいの新堀小にするために、花壇の花植え活動を行った。休み時間には委員会の児童を中心に草花の水あげなどをし、植物に親しむ良い機会となった。
- 身近な生物を観察できるようアシタバを植え、キアゲハの幼虫が蝶になる様子を子供たちとともに見守った。
- 昨年度切り落とした木の枝を再利用し、樹名板を作製した。

感想・課題等

- 昨年、初めて低木であるアジサイの苗を植えましたが、根付いた苗もあれば、枯れてしまった苗もありました。どうして枯れてしまったか考えながら、今年度もアジサイを植えました。昨年の教員の話をよく覚えていて、一日に何度も水をまきに行く姿からは、子供たちの成長を感じることができました。
- 以前から少し見られたキアゲハのために、アシタバを植えました。アシタバが増えたことでキアゲハの幼虫も見られ、クラスに持ち帰って蝶まで成長する様子を観察する様子が見られました。「どんな食べ物が好きなの？お水はあげるの？」と、飼育するためにキアゲハについて調べ、成長する蝶が飛んでいく姿を見送ることができました。
- 樹名板を作るために校内にどんな樹木が植えられているのかを調べることで、校内の自然環境への意識向上につながりました。今後も、動植物や自然環境への意識を高める活動を行ってまいります。



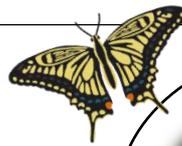
銅像公園の花壇は全4区画。
最後の区画に苗を植えました。
しっかり根付きますように…。



学校の木で作った、子供たちお手製の樹
名板です。



まるまる太った青虫は、子供たちに大人気！
見つけたら、すぐに教室へ。蝶になるまで観察
します。



学校名	鹿骨東小学校	対象学年と人数	全校
活動名	自然と親しもう		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：グリーンボランティア（栽培活動支援12名） 子ども未来館の皆様4名		

								
			 ○	 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 学校や地域の自然の観察などを通して、身近な自然に関心を持ち、自然と親しみ関わらう子どもを育てる。
- プールにおいて、「ヤゴトープ」を設置しヤゴと親しむ。自然の命の尊さを尊重できる子どもを育てる。
- 5年生は、田植えと稲刈りを行い米を育てることの大切さを考える。
- 3R活動を学校全体で取り組む。

成果

- 4年生は、年2回篠崎公園へ自然観察を行った。外部講師を招いて、篠崎公園に生えている樹木の種類や生き物について説明を受けた。自然ビンゴを行い、自然に関心を持ち、親しむことができた。
- 校庭に柑橘系の樹木苗を植え、アゲハチョウを呼び込む計画である。
- 3年生は、5月に昨年度設置したヤゴトープに住み着いたヤゴを採集した。捕まえたヤゴは教室で大切に育て、トンボになり羽ばたいていった。2年生は、9月にヤゴトープを設置した。子ども未来館の外部講師をお招きし、ヤゴについての説明を受けながら、ヤゴがやってくるのを楽しみに待っている。
- 5年生は5月に、総合的な学習として地域のグリーンボランティアをお招きし田植えを行った。9月には稲刈りを行い、収穫の喜びを味わうことができた。収穫したお米は、3学期の調理実習で食べる予定である。
- 1学期と2学期に1回ずつ「もったいない運動」を給食委員会を中心に行った。給食の残飯を減らす運動を1週間実施した。また、総合的な学習で6年生はSDGsについて調べ学習を行った。自分たちでできる取組として、ごみの分別方法や節電、節水の大切さを伝えるポスターを作り、校内に掲示した。全校児童に、限りある資源を大切にしようという意識が芽生えている。

感想・課題

- 児童が主体となって活動を行うことができた。特に高学年の児童がすすんで取り組んでいると、それを見た低・中学年の児童にも波及していった。
- 田植えやヤゴトープは、管理が大変であった。どちらも命あるものであるため、教員やボランティアが協力して管理に取り組む必要があると感じた。

ヤゴトープと浮羽化したトンボ



田植えと稲刈り



6年生による浸水緑道の掃除



学校名	松本小学校	対象学年と人数	全学年：218名
活動名	松っ子自然大好き作戦		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：学校応援団二村寿三様 岸野正義様 斎藤澄江様 農家浅岡様		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 本校の特色である「実のなる木」を育てることで、自然や食べ物に対して関心を持ち、食べ物や生育者など、自分たちの生活を支えてくれた人への感謝の気持ちをもつ。
- 学校全体で飼育しているヤギの世話をを行うことで、生き物の命の大切さを知り、動植物への愛情を育む。

成果

- 1年生は、みかんの木やほかの植物の観察を行い、みかんの収穫体験を行った。学習活動を「みかんカード」にまとめた。
- 2年生は、さつまいもの収穫体験を行った。高学年の協力のもと、2頭のやぎの世話の活動に取り組んだ。
- 3年生は、小松菜の生育方法について小松菜農家の方からお話を聞いた。自分たちでも小松菜を育て、小松菜の良さをより広めようと小松菜のイラストを校内に配った。
- 4年生は、梨の受粉・摘果・収穫体験を行った。梨の生育に興味を持ち、調べたことをポスターにまとめた。
- 5年生は、稲の成長過程や品種等を学ぶため、学校応援団の方の指導の下、苗植え・収穫を行った。
- 6年生は、当番活動として全員がヤギの世話に取り組み、下級生に世話の仕方や動物の面倒見ることの大切さについて教えた。

感想・課題等

児童は、実のなる木を育て、収穫することやカード等にまとめることで、普段何気なく口にしている食材がどのようにして育っているのか、児童が興味・関心をもつことができた。また、地域の方のご協力により深い体験学習を行うことができたり、学んだことをまとめて発表したりする力が身に付いた。

来年度、本校は閉校となり、新たな学校体制となる。今年度までに行ってきた生活科的・総合的な学習をどのように生かし、動植物を愛する心情を育むのか、学習計画に確実に盛り込めるようにしていきたい。

1年生 みかんの収穫



1年生 サツマイモの芋ほり



3年生 小松菜の植ええ



4年生 梨の摘果体験



5年生 稲の収穫



6年生 ヤギのお世話



学校名	江戸川区立篠崎小学校	対象学年と人数	全学年：約600名
活動名	篠小農園「本物の自然と触れ合いながら学ぶ」		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：篠崎小学校農園ボランティア		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 学校農園での栽培活動を通じて、身近な自然と触れ合い、自然環境を大切にする態度を育てる。
- 本物の自然を教材として使うことで、音、色、におい、触り心地などの五感を使った心に残る学習活動を展開する。

成果

- 学校農園で、低学年はサツマイモ、中学年は小松菜を中心に栽培活動を行った。高学年は、ジャガイモ等を栽培し、理科の実験に活用した。本物の自然を教材として扱うことで、児童が関心をもって学習に取り組むことができた。生活科では、季節による生き物や植物の様子の違いを感じたり、虫を捕まえての飼育活動に繋がったりすることができた。5年生の理科では、雌花や雄花の観察をした際、「他の植物はどうなっているんだろう」と疑問をもち、学校農園で栽培されている農作物や花を観察し、違いを話し合うことができた。
- 栽培委員会の活動で様々な農作物や花を栽培し、草取りや水やりなどの世話を継続的に行った。土作りや毎日の世話に大変さを感じながらも、農作物や花の成長に喜び、愛情をもって育てることができた。また、農園集会で栽培活動に取り組む様子を紹介したり、ヒマワリの種を配ったりして、全校児童に自然に親しみをもってもらうための活動に取り組むことができた。

感想・課題等

- 学校農園の栽培活動では、土作りやサツマイモの収穫などを学校農園ボランティアと協力しながら活動することができた。一方で、地域住民との交流が減少している。土作りや栽培活動における必要な作業など、農業従事者の地域住民に直接聞いたり、一緒に作業したりできる機会、仕組みづくりを構築していくことが課題である。
- 学校農園が学校外にあることにより、児童が草取りや水やりなどの世話に学校農園に行く際、安全管理のために担任や栽培委員会の担当教員が同伴する必要がある。負担軽減のために、学校農園ボランティアや学校応援団など、地域の方の協力を要請する必要がある。
- 本校は、理科委員会が中心となってメダカやカメなどの生き物を校舎内で飼育している。校舎改築に伴い、校内にビオトープが作られたので、飼育活動をビオトープへと移行していき、より本物の生態系を児童が学ぶことができる環境を目指していく。



1年生 生活科 サツマイモほり



2年生 生活科 生き物の観察



5年生 理科 花のつくりの観察



栽培委員会による栽培活動

学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	4年 43人・5年 48人
活動名	地球温暖化を防ごう・お米を育てよう		
指導者	学内指導者：4年担任、5年担任		



※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

自分たちで、植物を育て温暖化防止に貢献する。
お米を育てて、自分たちで食べよう。

成果

グリーンカーテンを作ったことで、生長を感じながら、温暖化防止をしていることを子供たちが実感させることができた。
生長を見ながら、植物の生長する力を感じる事ができた。
水やりを継続的に行うことで責任感を強めることができた。
田んぼを一つ増やしたことで、収穫量を増やすことができた。

感想・課題等

貴重な予算をいただき、教育活動に生かすことができた。
年間を通して、植物を育てていく計画を立てて、行きたい。
グリーンカーテンは、水の量でだいぶ生長する力が変わってくるので、水やりを24時間管理できる機械を導入できればと感じた。



1 つであった田んぼを、土でいっぱいになりました。

今までは1面だった田んぼを2面にして昨年度までの倍の面積の田んぼにすることができました。

収穫量も多くなり、5年生の学習が深まりました。



2つにしたことで、稲ものびのびと育つようになりました。

本校の児童1人1人観察もしっかりできる広さになりました。

生長を実感することができました。



あさがお、ゴーヤ、へちま、きゅうりを植えました。

夏の暑さと共にカーテンをいっぱいになるくらい生長しました。

花が咲いたり、実がなったりしていきました。

あさがおは、予想以上に生長しました。

学校名	篠崎第三小学校	対象学年と人数	6年生 90名・環境委員会児童 20名
活動名	篠田堀親水緑道 30周年		
指導者	学内指導者：6年生担任、環境委員会担当		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 篠田堀周辺の環境美化に努めることで、自然豊かな親水緑道を守っていかうとする意識を育てる。
- 篠田堀の情報について集会やポスター等で広く知らせ、学校や地域の伝統をつないでいく。
- 篠田堀に生息する生き物について調べたり飼育したりして、生き物への親しみをもつ。

成果

【篠田堀親水緑道の環境美化活動】

環境委員会の活動で、登下校時の通路となっている篠田堀周辺の清掃を行った。プランターに花を植えて学校から篠田堀までの通路を美化したことで、自分たちで環境を良くしようとする意識が高まった。

【環境委員会活動報告集会】

全校集会で篠田堀の歴史や環境に関するクイズ・生息している生き物の紹介をし、篠田堀の情報を全校児童へ伝えることで、児童が身近な環境について考える機会をもつことができた。

【篠田堀の生き物調査】

篠田堀に生息する生き物について調べ、生き物の種類や特性を把握することができた。水中に生息する微生物についても理科の授業で観察することができたことで、環境に対する意識の高まりを得た。

【篠田堀親水緑道 30周年記念式典への参加】

篠田堀 30周年記念イベントを本校で行い、篠田堀の歴史の紹介、篠田堀へ稚魚の放流や篠田堀を描いた図工作品の展示をすることができた。

感想・課題等

【篠田堀親水緑道の環境美化活動】

環境委員会や6年生の児童を中心に篠田堀の清掃活動が定着してきており、児童が主体的に活動する姿が見られた。地域の特性を生かした活動として計画的に取り組んでいきたい。

【環境委員会活動報告集会】

学校でのSDGsの取り組み状況も合わせて、篠田堀について今後も紹介できるようにしていきたい。

【篠田堀の生き物調査】

昨年度から生き物調査を実施し、生き物の生息状況をまとめている。そのデータを活用して、各教科の学習で使えるように整理し、各学年でも共有できるようにしていきたい。

【篠田堀親水緑道 30周年記念式典への参加】

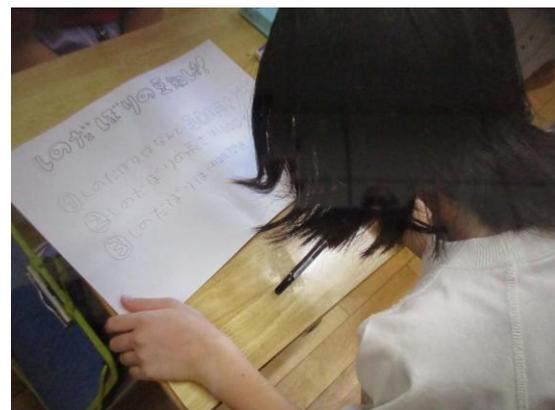
篠田堀の歴史や地域の自然を守っている方々の思いに触れ、「篠田堀を愛する会」など地域の方から篠田堀の話聞く機会を設け、地域の自然環境を守っていかうとする意識を育てていきたい。



【環境委員会活動報告集会】



【篠田堀の生き物調査・ポスター作り】



【篠田堀親水緑道 30 周年記念式典への参加】



学校名	上一色南小学校	対象学年と人数	全学年 297人
活動名	上南花いっぱいプロジェクト		
指導者	学内指導者：全教員 学外支援者：ユーステム		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 植物に対して、興味・関心を高める。
- 学校花壇の整備に参加し、緑化運動への意識を高める。

成果

- 児童が植物を大切にする意識を高めることができた。
- 学校が緑であられる環境になった。
- 一人一人が関心をもって、取り組むことができた。
- 以前までは、花壇の近くで遊び児童が多かったが、「柵」を設けたことで、離れて遊ぶ児童が増えた。

感想・課題等

- 児童から、「花壇が綺麗になった」「たくさんの植物があって嬉しい」など前向きな意見が出てきた。今後も環境を整備し、学校が緑であられるようにしていく。
- 各学年の意識は高まったが、次年度も継続して取り組めて行けるように、引継ぎを行う。
- 意識の高まり・興味の高まりではなく、次年度は、学ぶ機会も多く設けられるようにしていく。
- 学年、学級での実施が多かったが、次年度以降も実施して行う場合、委員会活動に取り入れられたり、2学年での実施をしたりするなど、様々な活動から取り組めるようにしていく。



<花壇の整備（3年生）>



<野菜（2年生）>



<パンジー（1年生）>



<グリーンカーテン（4年生）>



学校名	南小岩第二小学校	対象学年と人数	全学年363名
活動名	観察池を活用しよう		
指導者	学内指導者：各担任 学外支援者：パルシステム、学校応援団		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 観察池の生き物や米の観察をすすんで行き、身近な自然とふれあい、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。
- 調べたいと思ったことを、様々な方法で調べていくことで、自分でできることは何かを考えていこうとする。

成果

- 観察池での稲作とバケツ稲での稲作を比較しながら観察し、米を育てることで、食物を作る難しさを実感することができた。(SDGs 2)
- 観察池の微生物を顕微鏡で調べ、iPadを使って調べた微生物についてまとめる中で、小さな池の中に多くの生き物が存在していると感じることができた。(SDGs 4)
- メダカやエビ、鯉を観察することを通して、生き物を大切に育てようとする心情が高まった。(SDGs 14)

感想・課題等

【課題】

- 今年度は観察池もネットを張らなかったため、スズメなどの被害にあい、育った稲が食べられてしまった。
- 水の管理が難しく、担任や児童だけではなく、用務主事にも管理をしてもらった。

【感想】

- バケツ稲での稲作は難しく、少ししか育たなかったが、観察池の稲はたくさん育った。
- 観察池を先生や友達と楽しく観察する様子が見られた。
- 児童は、藻や水草をつついてくるメダカやエビに関心をもち、藻や水草が、生き物にとってエサになっているという事を学んだ。

5年生の活動の様子を掲載しています。

<田植え>お米マイスターの話をよく聞きながら、観察池とバケツに田植えをしました。
バケツ稲と比べながら、よく観察していました。



<育ってきた稲・脱穀>

ネットを張らなかったので、スズメに少し食べられてしまいました。
育った稲を、鉢とソフトボールで脱穀しました。



学校名	北小岩小学校	対象学年と人数	第5学年：53名
活動名	北小田んぼで環境を考えよう（総合的な学習の時間）		
指導者	学内指導者：小峯拓也、酒井明香里、藤崎喜仁、関川俊一 学外支援者：JA 鶴岡市東京事務所		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 学校にある田んぼを活用し、米作りの難しさや喜びを実感する体験を通して、米作りに携わる人々の苦労や願いを知る。
- 自分たちの生活の身近にある米について幅広く知り、米のよさや大切さに気付く。
- 田んぼと自然環境の関わりに興味をもち、日本や世界が抱える環境問題や、それを解決するための方法を調べ、地球環境に関する理解を深める。

成果

- 田起こし、田植え、成長の観察、稲刈り、脱穀、粃摺り、精米、そして実際に食べるところまでの一連の米作りの作業を自分たちの力で行うことで、米作りは多くの手間がかかっていることを知り、愛着や責任感をもって最後まで活動に参加することができた。
- JA 鶴岡の農家さんから、米作りの実際の作業や自然環境についての現状を聞くことで、実感を伴いながら自らの課題をもつことができた。
- 地球を存続させるための持続可能な社会をつくるために、自分たちにできることについて話し合い、考えを深めることができた。
- 学習発表会では、今回の年間の活動を発表テーマとし、全校児童や保護者に自分たちが学んできたことやできることを大勢の人に伝え、広めることができた。

感想・課題等

- 田んぼで稲を育てるという大掛かりな学習を、グリーンプラン推進校として活動できたことで、自然と人との関わりを深める学習が充実した環境の中で行うことができた。
- 令和元年度から米作りを毎年行ってきたため、田んぼの1年間の流れが校内で共有されており、年間計画や見通しをもちやすかった。
- ▲グリーンプランの活動費があったため、必要な道具類やよい土をつくるための肥料等を十分に揃えられたが、校内の予算だけでは不十分な面もある。

第5学年

きた小田んぼで環境を考えよう

北小岩小学校の先輩方から受け継いだ「きた小田んぼ」で1年間学び深めます！



R6
米づくり

田植え・稲刈り体験、米づくりに関する調べ学習、社会科の学習を通して、作り手の努力や思いを知り、これからの農産業や自然を守るために、自分たちができることを考えます。荘内米をくださった JA 鶴岡青年部のみなさんをはじめとしたたくさんの 方々に協力していただきました。「おいしいお米になあれ！」



これから収穫、脱穀、精米の作業に入ります。脱穀で保護者の方々のご協力もいただきながら、いかに大変な作業であるかを体験します。米作りの1年間を通じて、感じたことから自分たちでもっと知りたいことを出し合い、学習計画を立てて、次の学習へとつなげていきます。

環境を
考える

「きた小田んぼ」で得た経験や、調べたことから、「環境」について考えていきます。令和5年度北小祭では【SDGsマン】が登場し、お米の再利用や環境のためにできることを発表しました。



学校名	江戸川区立松江第二中学校	対象学年と人数	全校生徒
活動名	エコキャップ運動 道路クリーンアッププロジェクト 花壇整備		
指導者	学内指導者： 大和史佳 内藤卓		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

【エコキャップ運動】

- ・ペットボトルキャップを回収し、再利用することでプラスチックごみの削減につなげる。

【道路グリーンアッププロジェクト】

- ・落ち葉を掃いて、街を綺麗にし、住みやすい環境を整える。

【花壇整備】

- ・学校の緑を増やし、緑化活動への意識を高める。

成果

- ・エコキャップ運動では合計 112kg と前年度に引き続き 3R に貢献した。
- ・道路クリーンアッププロジェクトでは全学年の生徒が参加し、道路の美化をおこなった。
- ・花壇整備では PTA の方々や園芸ボランティア部と共に学校の花壇整備や設置を行い、学校の緑化を進めた。

感想・課題等

【エコキャップ運動】

- ・SDGs に関心を持ってもらう良い機会となった。
- ・エコキャップを再利用することができるのでとても良い活動となった。

【道路クリーンアッププロジェクト】

- ・協力して素早く、広範囲の清掃を行うことができたので良かった。
- ・落ち葉を入れるビニール袋があり、問題になっているので、出来るだけビニール袋を使用しないような方法を検討したい。

【花壇設置】

- ・花壇整備で、地域の学校応援団の方々、園芸ボランティア部の皆さんとお花の整備や新しい花壇の設置を行うことができたので、このような地域の方々と協力して行う活動を行えるようになっていきたい。
- ・今後も水やりの分担をし、手入れをしっかりと行っていく。昼休みの校庭開放の時に花壇が荒れてしまうことがあるので、全校集会で注意喚起をするなどといった対策を検討していきたい。

来年から、コンタクトケースの回収も導入し、私たちができる3Rを広げていきたい。

【エコキャップ運動】



各学年の昇降口で朝集めています。



今年度は目標の 100 kg を達成しました！

【道路クリーンアッププロジェクト】



学校前のイチョウ並木を重点的に！



学年やクラスで担当日を決めて活動します。

【花壇整備】



園芸ボランティアと協力し、学校応援団の方々に教えていただきながら整備していきました。

学校名	松江第五中学校	対象学年と人数	全学年 40 人
活動名	ウェルカムガーデン植栽		
指導者	学内指導者：富永 真由 吉川 硯人 田屋宏将		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

来校する生徒や保護者、地域の皆さんをお花で気持ちよく学校に来てもらう。

成果

- ・生徒会の呼びかけでボランティアが集まり、花の種類や色合いを考えて植栽活動を行った。
- ・植栽後、昼休みに水やりを行い、花が長持ちした。
- ・学校への訪問者や通りがかった地域の人が足をとめて花を見てくれていた。
- ・HPで活動を載せ保護者、地域にも周知することができた。

感想・課題等

- ・年に2回程度の植栽活動を行っているが、生徒会のメンバーが呼びかけ毎回ボランティアが集まっている。今年度は生徒が誘い合い、昨年度よりたくさんの生徒が参加した。花の種類はおおよそ8種類程度選び購入している。集まった生徒は雑草の処理など力のいる作業も黙々と行っていた。来校者や地域の方を意識し、色合いや背の高さを考え、どのように植えるときれいに見えるか相談しながら植えている。きれいに整えられた花壇を見て満足していた。自分たちの活動が人や地域に貢献できたという達成感を得ることができた。
- ・生徒会が献身的に水やりをすることで花の元気が保たれた。責任をもって管理し、景観を長続きさせようという気持ちを育てられた。猛暑で屋外での長時間の作業が難しいこと、花が枯れやすいという昨年度の反省から、今年度は11月下旬に植栽を行った。12月上旬の面談での保護者や地域の来校者に生徒の活動を広めることができた。
- ・今年度は3月の卒業式前にも植栽を予定している。
- ・環境学習推進のモデル校として、生徒会の活動を中心に多くの生徒たちが環境について考え自ら関わっていけるように、活動を計画し実践していきたい。来年度は肥料や種子の導入などから生徒の自然愛護への意識を高めたい。また、植栽をきっかけにその他の環境問題改善にも目をむけられるよう生徒の育成を行っていきたい。

実際にHP にあげた写真から抜粋しました。



にぎやかに植えていました



見てくれる人のことを考えて



学年を超えて交流しながら

学校名	南葛西中学校	対象学年と人数	全学年から希望者 37 名
活動名	グリーンカーテン		
指導者	学内指導者： 皆川裕希、和久碧、笠原毅陽、田辺綾野		

	 ○				 ○			
		 ○	 ○		 ○			

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

目標

- ボランティア精神を大切にしながら、生徒の健全育成を図り、社会貢献の精神を培う。
- ゴーヤを使ったグリーンカーテンで、教室に入る日光を減らし、節電をしながら過ごしやすい教室環境をつくる。
- ゴーヤを使ったグリーンカーテンづくりを通して、SDGs について学びながら、自分たちができる持続可能な社会への貢献する意識を養う。

成果

- 昨年度とほぼ同じ人数で活動することができた。SDGs やゴーヤを使ったグリーンカーテンへの興味・関心が高いことがうかがえた。生徒の昇降口付近にプランターを置き、休み時間等に観察・水やりを行い生徒の興味を高めることができた。
- 参加生徒は昨年度購入したプランターの土と敷石を入れ替え、ゴーヤ、ヘチマ、ヒョウタンの種を植えた。生物育成に興味を持ちながら、学校からできる SDGs への取り組みを学ぶことができた。
- 育てていくうちに、ゴーヤ、ヘチマ、ヒョウタンの果実ができていくようすを観察でき、持続可能な農業についても学ぶことができた。
- ゴーヤのグリーンカーテンは、室温を -5° 程度下げられるという成果も出ていることを生徒に伝えたところ、食料をただつくるのではなく、農業と環境問題が繋がっていることを知り、より SDGs について興味をもって学ぶことができた。

感想・課題等

- ボランティア参加者をきっかけに、その他の生徒にも興味を持ってもらうことで、SDGs への関心を高めることができたと思う。地球温暖化という身近な問題に対して中学校の理科、技術・家庭科などの日々の授業で学んだことを活かして取り組めたことが良かった。
- 教員側も園芸への知識が不足しており、お店で売っているような立派な野菜にすることはできなかった。どのような土が植物育成に適しているのか、どれくらいの頻度で水を与えればよいか模索していく必要があると感じた。また、夏休み期間の学校閉庁日の間、水やりをどうするべきなのか検討する必要があると感じた。
- 立派な野菜をつくることができたなら、ヒョウタンの水筒づくり、ヘチマのスポンジづくり、ゴーヤの試食会などを開き、さらに SDGs への興味をいだかせる活動をしていきたい。



学校名	清新第一中学校	対象学年と人数	全学年 504 名
活動名	清新第一中学校生物図鑑（デジタル版）		
指導者	学内指導者：増田穂高 鈴木佑允 三井和子 下村竜太 大江宏		

			 ○					
					 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

清新第一中学校および近隣緑地に生息している動植物を同定し、「清新第一中学校動植物図鑑【デジタル版】」を作成する。議論すべき社会的課題や生徒の興味関心に合わせ下のキーワードに関連させながら、科学、技術、情報、道徳（郷土）教育に活用するなど、学年や時期を問わず年間のプログラムとして取り組む。

★キーワード（江戸川区のみどり、身近な外来種問題、AIや人工知能などの先端技術、情報の信頼性）

成果

緑地整備用に購入された植物ではなく、毎日見ている生徒にとって当たり前の風景や環境の動植物を対象とすることで、改めて自分を取りまく緑地環境を見直し、「こんな植物が校庭に植えてあったのか」、「教科書に載っている植物の本物がここにある！」など、気づきの多い活動となった。

動植物の同定においては google レンズや人工知能花分類システム ハナノナ（千葉大学 STAIR Lab）を使用し、情報の共有にはオクリンクを活用することで、先端技術に触れながらも得られる情報を精査し、植物解説パネルを作成することができた。

感想・課題等

【感想】

1年理科植物分野、2年技術生物育成分野、3年理科環境分野など学年や教科をまたいで活動に取り組むことにより、教科の関連性を意識させながら取り組むことができた。

多くの生徒たちが自分たちの住むまちの生物環境について考え、積極的に関わっていきけるように、継続的に活動していきたい。

【今後の課題】

多くの生徒が参加することで、学校敷地内や近隣地域の動植物の情報を集めることができたが、その情報量が多くなるあまり整理整頓しデータベース化するのに時間がかかってしまう。集まった情報をデータベース化し、生徒全員がアクセスできるようにするには至っていないため、今後学校ホームページに本取り組みの特設ページを作り、生徒の集めた情報を掲載していきたい。

写真を撮り植物を同定する



オクリンクを用いて写真や情報を共有



得られた情報を整理

シダレザクラ(枝垂桜)

植物界 被子植物門 双子葉植物綱 バラ亜綱 バラ目 バラ科 サクラ属

シダレザクラは広義では枝がやわらかく枝垂れるサクラの総称。枝垂れ性は遺伝的に潜性的ため、シダレザクラの子であっても枝垂れない個体が生まれる場合がある。

平安時代には存在したことが当時の文献に記録されていることから、当時から種子により栽培化されていたと考えられている。

キーワード

被子植物 双子葉植物 潜性

より詳しく知りたい人はコチラ



ソテツ(蘇鉄)

植物界 裸子植物 ソテツ綱 ソテツ目 ソテツ科 ソテツ属 ソテツ

裸子植物に属する常緑樹の1種。外観はヤシに似ているが、系統的には全くの遠縁である。雌雄異株であり、雄花、雌花をそれぞれ茎(幹に見える部分)の先に形成する。

ソテツを含めてソテツ類は、中生代から形態的にあまり変わっていないため、「生きている化石」とも呼ばれている。

キーワード

裸子植物 雌花 雌花 中生代

より詳しく知りたい人はコチラ



学校名	小岩第五中学校	対象学年と人数	全学年有志 30 名
活動名	花いっぱい運動		
指導者	学内指導者：ボランティア部教員・生徒会指導教員・給食委員会指導教員・栄養士		

								
		 ○			 ○			

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

目標

- ・校内の花壇の整備を通して、自然を慈しみ大切にしようとする心を育てる。

成果

- ・ボランティア部員を中心に、花の色合いや高さを考えて植栽活動を行った。
- ・ボランティア部員を中心に、水やりを行い、植物を大切に育てる心情につながった。
- ・今年度は、春、夏、秋の季節ごとに花の植え替えを行い、季節を感じられるようにした。
- ・近隣の公園や商店街の花壇の植え替えも行い、地域にも貢献した。

感想・課題等

<感想>

- ・放課後、ボランティア部員が苗の植え替えをしたり、花壇の手入れをしたりしていると、部員でない生徒も手伝いをしてくれ、植物に関心をもったり、大切にしようという心情を育くんだりするきっかけになった。

<課題>

- ・校内の花の選定は教員で行ったが、さらに植物に関心をもたせるために生徒に選ばせたい。
- ・手伝いをしてくれた生徒は、ボランティア部員が植栽をしているときに部活動をしている生徒や下校中の生徒が申し出てくれていたが、朝礼などで全校生徒に植栽の手伝いを呼びかけ、多くの生徒に植物に関心をもつきっかけにしたい。

<その他の取組>

- ・文化祭で生徒会が SDGs に関連する動画を作成したり、クイズを出したりして全校生徒に関心をもつきっかけを作っている。
- ・給食委員会の提案で年 2 回残食 0 運動を設け、食べ残しをしないきっかけをつくっている。

<校内の活動>



部員による植栽



水やり



部員以外の生徒の植栽

<校外の活動>



近隣の公園の植栽



近隣の商店街の植栽





発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>
